
Dearの怖い話

Dear

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Dearの怖い話

【NZコード】

N8901A

【作者名】

Dear

【あらすじ】

作者のDear自身が体験した事を書かせていただきました。今では靈感が減少したので、見る機会も減少しましたから安心して生きてます・・・

(前書き)

マジで実話です！

同じ様な事に悩んでいる人は意外にいるかも知れませんね

・・・

始まりは小学生の時
確か、五年生の頃

その頃の俺は靈感を持つ小学生だった

最初は小さな靈感

高校三年の夏頃まで続く妙な能力 . . .
彼女を見て以来、強くなっていく能力 . . .

もうすぐ11月

小さな時に不思議な体験をして以来、俺はハッキリした靈は見てい
なかつた . . .

ソレは寝よつと布団を敷いていた時だと思つ

急に寒気がした . . .

強烈な視線 . . .

誰もいるはずの無いベランダから . . .

親は後ろのリビングにいる . . .
右手側のベランダには誰もいない . . .

俺は本能でベランダを見てしまった

そこには . . .

長い髪

細い体に白い服

説明する事が出来ない程に恐ろしい顔立ち

そこには確かに女性が立っていた . . .

彼女はすぐ、横にスライドする様に消えてしまった . . .

次の日

俺は同じマンションのクラスメイトに恐ろしい事を聞いてしまった .

「知ってるか？昨日、うちのマンションで自殺があつたらしげ？」
「の間も裏のマンションで自殺があつたよな？」

自殺？

しかも昨日？

家に帰るとマンションの前に花が置いてあつた . . .

中学生

その頃には靈感がひどくて、幽靈を度々見ていた . . .

それは別の機会に残しておきます

中学二年の時

それは次第に強くなつていく靈感に困ついていた時であつた

今よりいいマンションに家族と引っ越しをしたのだ . . .

学校が変わるのは嫌なので俺は毎日、電車で中学へ通つた

マンションは新築

だが、嫌な感じを少し感じた . . .

高校一年の夏

リビングで兄と弟と一緒に実話系の怖い話をテレビでやつていたの

で見ていた時でした . . .

不意に兄が何かに気付きました . . .
俺と弟も気付きました . . .

リビングと玄関の間に扉があるので、誰かが立っていたんですけど、扉を開けると右がトイレで左は兄の部屋なので母親がトイレに行つたのだと思いました . . .

兄は呼び掛けます

「母ちゃん? トイレに行くん?」
「う~ん . . .」

三人は安心しました

でも変です

母親は扉の手前、右にある和室に寝ているのです . . .
出て来た感じはしませんでした . . .

そして三人は声を聞いた後に気付きました . . .

母親の髪はそんなに長くはない

白い服をきて寝てはいない . . .

もう一度、兄が尋ねました

「母ちゃんー、本当にトイレへ。」

すると和室から母親が出て来ました . . .

「何ね？さつきから？私はずっと部屋で寝てたわよ。」

三人は固まりました

さつきの女は一体誰なんだと . . .

俺はその中で気付いてしまった

あの時の彼女だ

間違いない . . .

俺が憑れてきたのだ . . .

次の日の夜

俺は金縛りにあつた

動かせないし声が出ない . . .

前にテレビで金縛りは科学的に検証していたが、あの時の金縛りは違つモノだった . . .

俺の目が正しければ、ベットの左側にあの女が立っている

ヤバい！

初めて思った

時々、外からの光で彼女の姿が鮮明に見える

やはりあの女だ

髪の毛が首に当たつて気持ち悪い . . .

手が首に近付いた！

俺は死ぬと思った
思わず目をつぶる

だが、手の感触が消えて彼女がいた方を見ると、誰もいなかつた

夢か？

いや違う . . .

彼女の髪が首に数本落ちているから . . .

さらうに次の日の夜

また来た . . .

今度は首を絞めて来やがった . . .

俺は心の中で思った

「俺にはあんたをどうにも出来ないよーどうかに行ってくれ！」

すると、首を絞めていた手が緩んだ

それ以来、俺は彼女を見ていよい
さらに靈感も薄れてきたようだ . . .

なんだい？彼女がどうなったか知りたいかい . . .

言つたでしょ？

俺は見ていないよ？

靈感が強くなつて來た弟は見ているけどね？

弟の部屋に何度か出てからどうなつたか知らなによ . . .

まあ、しばらく家の中にいたようだけどね . . .

町でそんな靈を拾わない様に気をつけ . . .
じやないと怖い目にあいますよ . . .

別の話はまたの機会に残しておきますね？

アナタが無事ならまた会いましょう？ . . .

マジで実話です

お陰様で、今では一人では暗くして寝れません
アナタが無事ならまた会いましょう . . .

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8901a/>

Dearの怖い話

2010年12月24日14時03分発行